

神戸学院大学 中期行動計画 実行計画(第4層) 2017年度達成度評価表 分野:研究

		評価	理由
中期計画	1 研究環境の整備と充実		
実行計画	(1) 研究の質と資金の効率配分に意を払いながら、研究設備・施設の充実を図る。	C	5年間を通して、学部・研究科においては個々に検討を行ったものの、成果は限られたものになった。形骸化した計画や全学的に取り組むべき計画も多く、第2次中期行動計画(2018-2022)では、大学全体として改善策を検討し、実行に移すことが望まれる。
	(2) 研究費の適正使用を遵守する体制をより強化する。	B	計画当初は各学部・研究科での取り組みが中心であり、統一した取り組みが見られなかったが、説明会や研修会を継続的に開催するといった地道な取り組みにより、体制は強化されている。
	(3) 研究所設置に向けた制度的検討を行う。	C	学外研究者との共同研究推進については、5年間で支援体制が整備され、一定の成果が上がっていることは評価できる。しかしながら、研究所設置に向けた制度的検討は、一時的に進捗が見られたものの、最終年度にはやや停滞した状態となっている。
	(4) 知的財産の創出の強化を図るとともに、その適切な管理を遂行する。	B	学部・研究科の教員の研究成果の公表については早い段階で取り組み、ホームページを始め、刊行物等でも公表したことは評価できる。また、シーズ集については毎年見直しが行われ、構成をわかりやすくする等、利便性が高まった。しかしながら、機関リポジトリについては、検討が進まず構築に至らなかった。第2次中期行動計画(2018-2022)において、確実に実行することが望まれる。
中期計画	2 多様な外部資金の獲得		
実行計画	(1) 科学研究費の申請数および獲得数の増加を目指す。	C	計画当初は、コアとなる部署のイニシアティブがあまり見られなかったものの、「科研費申請説明会」を研究者と委託業者スタッフとの個別面談によるアドバイス等の支援に変更し、学部等からも高い評価を得たことは評価できる。大幅な増加には至らなかったものの、大学全体として意識は高まった。
	(2) 受託研究・共同研究・研究奨学寄附金の獲得、増加を目指す。	C	毎年、迅速に各学部・研究科へ研究助成情報が提供され、広く周知できていることは評価できるが、獲得、増加といった成果には結び付けることができなかった。課題も残るため、第2次中期行動計画(2018-2022)において、改善策を講じることが望まれる。
	(3) 外部資金獲得に向けた支援体制を強化する。	C	学部・研究科において、毎年、外部資金に関する情報提供が適切に行われている点は評価できる。専門業者による申請書の作成等の支援もっており、支援体制は概ね整備されたものの、支援の内容がニーズに合っていないといった課題も新たに出ており、改善が望まれる。
中期計画	3 学内・学外との研究連携促進		
実行計画	(1) 学部・研究科間の研究連携推進を図る。	C	計画当初の理系3学部での研究連携の歩み以降、学部等を超えての研究連携についてはあまり進捗が見られなかった。しかしながら、2017年度に私立大学研究ブランディング事業へ申請を行い、採択には至らなかったものの、多くの学部が事業計画策定に参加したことは、学部を超えての研究活動の推進に一定の成果があったといえる。
	(2) 神戸医療産業都市構想等へ積極的に参画する。	B	文系学部の協力が課題ではあるものの、地道な活動により理系学部については薬学部だけでなく、有瀬キャンパスの総合リハビリテーション学部、栄養学部を含めた連携が実現しており、2018年度に医療産業都市20周年を迎えるにあたって神戸市の担当部局からキックオフ企画にかかる連携の依頼を受けるなど連携が進展しており、評価できる。
	(3) 企業、経営者団体、自治体等との産学官連携事業をより促進するとともに、共同研究の推進を図る。	B	学部・研究科において、毎年、さまざまな取り組みが行われており評価できる。しかしながら、大学としての支援が十分であるとは言えず、学部・研究科においても課題が残る結果となっている。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る